

京都大学教育研究振興財団助成事業 成 果 報 告 書

2025年 12月 22日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 エネルギー社会環境科学専攻・エネルギー科学研究科

職名・学年 博士学生・3年

氏名 パル マドゥリ、MADHURI PAL

助成の種類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	経済複雑性に関する会議 Summer School and Conference on Economic Complexity Toulouse, 2025		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭・ <input type="checkbox"/> ポスター・ <input type="checkbox"/> その他()		
発表題目	(1) Integration of Economic Complexity and Criticality Assessment of Materials		
開催場所	Manufacture de Tabacs Campus Sciences Po and University of Toulouse Capitole		
渡航期間	2025年 07月 07日 ~ 2025年 07月 16日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000 円	
	使用した助成金額	350,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費目	金額(円)
		航空運賃	197,380
		宿泊費 (07/08-07/13) (6*16100)	96,600
		滞在費 (07/07-07/13) (7*5200)	36,400
		学会参加費	0(無料)
		ビザ	14,460
		はるか 電車(京都駅一関西空港)	6,200
以上に助成金を充当			
当財団の助成について	京都財団助成金への心からの謝意と、申請プロセスの年二回実施に関する要望 京都財団助成金に対し、心より感謝申し上げます。本助成金は、大学院生によるグローバルな研究協力を大幅に促進し、多大な利益をもたらしています。また、現在の申請手続きおよびガイドラインが非常に簡潔で分かりやすい点についても高く評価しております、申請者が研究目的を明確に記述する上で大いに助けとなっています。しかしながら、現在の年一回のサイクルではなく、申請プロセスを年二回実施していただくよう、謹んでお願い申し上げます。年二回の申請機会を設けることで、学生は年度後半に予定されている学会や会議への参加・発表に必要な資金を申請できるようになります。これにより、大学院生が時宜を得た学会参加のために必要な支援を確保するための、より大きな柔軟性と機会を提供することが可能になります。		

成果報告書 / パル マドゥリ、MADHURI PAL

この報告書は、研究助成金によるご支援を受け、第 2 回経済複雑性に関する年次会議への参加を通じて達成された主要な成果と進展を要約するものです。この機会は、私の研究の理論的・実践的な基盤を強化し、専門的なネットワークを大幅に拡大する上で決定的な役割を果たしました。

会議に先立つサマースクールでは、著名なイダルゴ教授による、経済複雑性の理論と複雑な数学的基礎に関する終日の集中講義を受けました。中核理論と数学の習得: 理論の提唱者であるイダルゴ教授から、経済複雑性の基本的な概念に加え、その複雑な数学的公式を段階的に直接指導いただきました。この直接的な学習経験は、応用研究を行う上で不可欠な、中核となる理論的・数学的基礎を確立しました。知識の拡大: 世界中の参加者との質疑応答や、理論の他分野への応用に関する説明を通じて、研究の視点と知識ベースが著しく広がりました。この助成金によって得られた基礎知識は、現在進行中の研究において経済複雑性の枠組みを構築し、応用するための極めて重要な土台となります。

助成金により、概念の重要性と応用に焦点を当てた主要な会議に積極的に参加し、研究を発展させることができました。研究発表と議論の活性化: 会議 2 日目の午前に発表を行い、重要材料のサプライネットワークリスク分析に経済複雑性の原理を活用することに焦点を当てた活発な議論を導きました。具体的なフィードバック: 参加者からは、経済複雑性理論に基づいた指標の構築方法や、鉱物・鉱業の産業特性分析に関する貴重な提案をいただきました。これにより、研究の実践的な応用力が強化されました。比較からの洞察: 指標構築に経済複雑性を応用しているカザフスタンの研究者の発表に続けて聴講することで、私の研究アプローチにとって重要な洞察と妥当性の確認が得られました。これらのフィードバックと洞察は、サプライネットワークリスク指標の構築という私の研究課題を直接的に強化しました。

会議の参加は、強固なプロフェッショナルネットワークを構築する上で不可欠でした。提唱者との直接交流: 助成金により、理論の提唱者であるイダルゴ教授と直接交流する機会を得て、出版物からは得られない具体的な洞察と説明を受けました。グローバルな研究協力: この理論を実践的に応用している世界中の研究者と交流し、特に発表後の議論や、他の研究者（カザフスタンの研究者を含む）との将来的な共同研究への働きかけを通じて、協働の機会が生まれつつあります。この助成金は、経済複雑性の先駆者や実践者と繋がり、強固で実践的な研究開発に不可欠な専門的ネットワークを構築する上で、決定的な役割を果たしました。

本報告書は、Google Gemini AI の協力を得て翻訳されました。

